

令和6年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（竹田 幼稚園）

教育目標

未来を 心豊かに たくましく生きる子どもの育成

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し ・子どもたちは安定感をもって園生活を送っていた。教師との信頼関係を土台に、友達と関わりを喜び、自分の思いを出して遊びを進めようとする姿が見られた。教師と一緒に遊びを楽しむ姿が多く見られたが、教師がいないと自分たちだけで遊びを進めたり、遊びを広げたりしにくく姿もあり、自ら心を動かしてみたいことを十分に楽しめる環境や援助について考えていきたい。 「幼保小の架け橋プログラム調査研究事業」3年次にあたる今年度は、交流や研修がより充実し、そのことで、保育を振り返り、改めて育ちのつながりについて考えることができた。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 子どもたちは、幼稚園に楽しく通っていて、担任だけでなく、教職員も気軽に声をかけ、子どもの姿や成長を一緒に喜んでくる存在で、園全体で保育がされていることをありがたく思う。小学校との連携も、子どもたちが、小学校への期待感が増していて、喜んでいる。今後も続けていてほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和6年10月5日～20日	学校運営委員会理事
最終評価	令和7年3月7日	学校運営協議会理事

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・主体的に遊んでいる姿やつながりの中で思いを伝えあっている姿など、遊びや生活での子どもの姿を話し合ったり、エピソード研修をしたりして、子どもの姿の見取り、発達の姿、環境構成や教師の援助について話し合う。
- ・異年齢の交流「幼稚園家族」の取組を通して、いろいろな人と関われる援助や環境を考え、人と関わる楽しさやつながる心地よさを感じられるようにする。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・子どもが主体的に遊び、つながりの中で言葉で思いを伝え合うための環境構成と教師の援助について、エピソードから読み取る研修を実施。
- ・公開保育とその事後研修での協議で学んだ内容（環境構成や教師の援助）
- ・保護者アンケート項目「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力を（学びに向

かう力) を身につけていること」の回答

中間評価

各種指標結果

- ・エピソード研修では、学校指導課の指導を受けて、研修をした。一人の子どもの心の変容を捉える援助、友達の中で自分の思いを出せるための援助、生き物への関わりを通して愛着がもてるようになるための援助について考察した。
- ・研究保育では、小学校教員と一緒に研修を行い、子どもの見取りについて、個々の姿や10の姿、環境や教師の援助という観点から話し合うことができた。
- ・保護者アンケート項目「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（学びに向かう力）を身につけていること」の回答は、「あてはまる」82%「ややあてはまる」12%であった。教職員は、「あてはまる」65%「ややあてはまる」35%と、まだ十分ではないと答えている。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・エピソード研修では、個々の姿を見取り、その時の子どもの心の動きを捉えて、寄り添ったり、受け止めたり、友達との中に入れるように援助したりする教師の関わりについて、考える機会になった。エピソードを出し合うことで、いろいろな先生の考え方や願い、援助の仕方などに触れ、学ぶことができた。各学年での発達に応じた関わりや環境を考えていきたい。
- ・小学校教員と一緒に研修を行うことで、多角的に子どもを捉えたり、幼児期の遊びの大切さについて再認識できたりした。子どもの育ちのつながりや、幼児期の遊びの充実について、発信していきたい。子どもの思いと教師の願いやイメージを共有して遊びを進めるための教師の関わりや、他学年とのつながりについて、より深めていくことが課題に挙げられる。
- ・保護者は、子どもが幼稚園に行くことを楽しみにしている姿から、園生活を楽しんでいると感じていることが分かった。教職員は、“夢中になって”という部分を意識し、遊びが充実することを願い、関わっていることからのアンケート結果になったのではないか。

分析を踏まえた取組の改善

- ・研究保育や日々の保育の中で、子どもの心の動きを捉えたり、つながりを意識したりできる援助について、考えていく。
- ・幼稚園家族や他学年との関わりなど、いろいろな人と関われる援助や環境を園全体で考え、それぞれの学年の発達に応じた子どもの育ちがつながっていくようにしていく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・行事や異年齢の関わり「幼稚園家族」の取組内容
- ・保護者アンケート項目「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力を（学びに向かう力）を身につけていること」の回答

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・幼稚園の一人一人を大切にした教育を今後も続けていってほしい。いろいろな人と関わることは大事になってくる。幼稚園でも、異年齢や交流などの経験を十分にしてほしい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな人とのつながりを大切にしたい思いから取り組んでいる異年齢の関わり「幼稚園家族」では、園外保育や誕生会などの活動の中で、意図的に触れ合う機会をもつことで、親しみを感じ、関わり合って遊ぶ姿が見られた。 保護者アンケート項目「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力を（学びに向かう力）を身につけていること」の回答は、「あてはまる」82%「ややあてはまる」18%であった。
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園家族や小学校との交流でのペア活動など、クラスの友達以外の人と関わる機会を意図的にもつことで、刺激をもらったり、相手のことを思いやったりする姿が見られた。相手を知ることで、受け入れて自然と交じり合って遊ぶ姿が見られるようになった。 キンダーカウンセラーとも連携し、子どもの思いや困りを分析し、日常の関わりや援助について考える機会をもち、幼児理解を深めることができた。担任と支援加配教員との連携や、一人一人が“やってみたい”と心を動かすことが十分にできる環境や教師の援助について、考えていきたい。 教師との信頼関係を土台に、友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる。教師を拠点に遊びが広がったり、友達同士がつながったりすることが増えてきたが、教師がいないと遊びにくい姿もある。興味のあることを存分に楽しんだり、友達とのつながりが広がったりするために環境や教師の援助についてより深く考えていきたい。 保護者アンケートは、概ねよい評価をいただいている。ホームページやインスタグラムの更新を求められる声もあり、3学期以降更新がしにくかったのが反省である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体性とはどのようなことなのか、指示はしないが教師の意図が強すぎないかなど、発達に応じた環境や教師の援助、育ちのつながりについて、研究保育やエピソード研修などから考えていきたい。 子どもの様子や活動などを発信することは、保育を振り返ったり、活動での意図や幼児教育で大切にしていることを考えたりすることにつながる。教員が意識して自分事として積極的な発信ができるようにしていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園のことはなかなか分かりづらいので、どんな活動をしているのか、どんな教育をしているのかを発信していくことは大切である。生活発表会を見て、自分の子どもが通っている時ことを思い出した。子育てをしている親と、子どもの成長を喜びあえる幼稚園であってほしい。

（2）架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども同士の交流では、事前・事後の研修を行い、子どもの育ちや課題について考察する。 幼保小の教員と保育・授業を見合い、子どもの発達や心の動きについて見取り、互いの教育の理解を深めるとともに、学びをつなげるために、教師の援助や環境構成について考える。 子ども姿から、カリキュラムを見直し、改善する。
--	--

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・子どもの育ち、教師の援助などについての事例や公開保育・公開授業を通しての研修実施。
- ・架け橋期のカリキュラムの見直しのための研修実施
- ・保護者アンケート項目「幼稚園は保育所・小学校や地域と連携して、子どもを育もうとすること」の回答

中間評価

各種指標結果

- ・幼稚園公開保育1回・小学校公開授業2回・保育所の公開保育（3日間自由参観）・幼保小交流を3回実施した。それぞれ研究協議では、小学校教員・幼稚園教員・保育所保育士が、同じグループで話し合い、子どもの捉え方や援助について話し合った。
- ・子どもの姿を見取る幼保の教員を中心とした研修を初めて行うができ、幼児期の架け橋期のカリキュラムの見直しができた。
- ・保護者アンケート項目「幼稚園は保育所・小学校や地域と連携して、子どもを育もうとすること」の回答は、「あてはまる」が100%であった。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・幼稚園の5歳児公開保育に、小学校教員全員が参観し、その後の研究協議では、グループに分かれて、個の見取りや環境構成・教師の援助について話し合うことができた。小学校の教員が1時間保育をじっくりと観る初めての機会となり、幼児教育について理解を深めることができた。
- ・幼保小交流では、1学期に砂場での遊び・水遊び、2学期には運動遊び・秋見つけを計画するなど、年間を通して竹田ブロックの共通の視点である「つながり」「主体性」を意識した交流を計画した。年度当初に、よりつながりがもてるようにと、教員間でねらいを共有し、5歳児と一年生のペア活動を取り入れ、交流が深まるようにした。事前・事後の打ち合わせの日程調整や、打ち合わせに参加できない教員へのねらいの共通理解などが課題に挙げられる。
- ・なかなか実現できなかった幼保の研修が取り組めたことは大きな成果であった。保育所の勤務体制で、たくさんの先生が参加しにくいことが課題だが、より多くの教員が参加できるように、どのような研修が教員の学びになるのか、負担なく、継続できる方法を考えていきたい。
- ・保護者アンケート結果から、保護者に幼保小の交流や教員の研修の実施について、理解しているだけていることがうかがえる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・幼保小交流では、事前・事後の研修の中で、子ども同士がよりつながりがもてたり、個の育ちをみんなで喜び合えたりできることを意識して、教員同士が活動でのねらいを共通理解し、関わりや援助について考えていく。
- ・幼稚園の公開保育や研修の中で、幼児期の育ちについて学んだことをカリキュラムに反映させる。
- ・幼保小交流での様子や子どもの育ち、教員間の研修など、ホームページや掲示物、終業式などで、保護者や地域に向けて発信し、架け橋期の充実や幼児教育の質の向上への理解を図る。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・公開保育や幼保小の交流を通して、子どもの育ちや教師の援助などについて考察する研修の実施。
- ・架け橋期のカリキュラムの見直しのための研修実施

	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート項目「幼稚園は保育所・小学校や地域と連携して、子どもを育もうすること」の回答
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の保育所・小学校と子どもたちの交流だけでなく、先生同士が交流しているのは、とてもよいことだと思う。地域の子どもたちのために、情報を共有していくことが大切だと思う。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園公開保育1回、1年生と幼児のペア活動による交流活動を継続して行った。公開保育や交流には、幼保小の教員で事前事後の研修を実施し、共通の視点や、個の見取りなど、幼小の立場から意見を出し合い、話し合うことができた。 ・カリキュラムの見直すために事例検討や各学年の育ちをつなぐための環境について考えることができた。 ・保護者アンケート項目「幼稚園は保育所・小学校や地域と連携して、子どもを育もうすること」の回答は、「あてはまる」94%「ややあてはまる」6%であった。
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月に運動遊びの交流活動から、継続してペア活動を取り入れ、互いに相手意識をもち、名前で呼び合う仲になり、より親しみをもって関わるようになった。小学生に憧れや親しみをもつたり、相手を思って関わったりする姿が見られ、それぞれに成長を感じられる活動となつた。教員同士も、交流の打ち合わせを続ける中で、子どもたちの成長を共に喜び合える関係性になつてきた。 ・公開保育の事前研修には、小学校低学年や育成支援クラスの先生や保育所の先生も参加し、保育について話し合つた。公開保育では、しっぽ取りの活動を見てもらい、幼児期での遊びを通しての育ちについて話し合つた。共通の視点や10の姿を手掛かりに、子どもたちの育ちや教師の援助・環境など、幼児教育に触れ、学校との違いを感じながらも、育ちのつながりについて考えることができた。 ・幼児教育から小学校教育への育ちのつながりを意識する研修をする中で、幼稚園の環境についても発達に応じて環境を変化させていくことを学んだ。各学年で終わりではなく、育ちがつながるためには、各保育室の環境においても経験の積み重ねが大切で、その視点から環境について考える機会をもつことで、子どもの育ちに目を向けた環境を意識するようになった。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保小交流は、それぞれのねらいを共有し、互恵性のある交流になることを意識して取り組んでいく。 ・幼保小の教員での授業・保育をみての研修を積み重ね、子どもの見取り方や疑問を聞き合える関係性を築いていく。 ・当たり前にしていた環境について、教師の意図を改めて考え直し、教員で共通理解して、それぞれが発達や育ちを意識した環境や関わりを考えていく。

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の交流で、一年生に親しみを感じたり、小学校を楽しみにしたりしている姿がある。小学校との定期的な交流で、子どもも親も、小学校が“初めての場所”ではなくなっているようである。今後も続けていってほしい。

(3) 預かり保育に関して

(取組結果を検証する) 各種指標	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢で自然に関わる姿を大事にし、子ども同士で育ち合う機会となるように援助する。 ・就労や育児などで、年少組の預かり保育が増えていることを踏まえ、年齢にあった遊具や環境を預かり保育担当者と考え、子どもが安心して楽しく過ごせるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数 ・預かり保育の指導計画の見直し ・保護者アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答

中間評価

自己 評 価	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・早朝預かり保育は5歳児が多く、毎日4人～5人が利用している。通常預かり保育は4歳児の割合が多く、常に半数以上が参加している。3歳児は、就労で利用されている他は、あまり利用がない。 ・預かり保育の記録、子どもの姿をみて、より楽しく遊べるような遊具を取り入れたり、環境整備の見直しを図ったりしている。 ・保護者アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答は、「あてはまる」95%、「ややあてはまる」5%であった。
	分析 (成果と課題) <ul style="list-style-type: none"> ・早朝預かり保育では、朝の時間をゆったりと過ごせるように、教師と触れ合い時間を大切にしたり、粘土など落ち着いて遊べる遊具などを工夫したりすることで、子どもたちも喜んで過ごしている。通常預かり保育では、継続ができるように作品を残しておくことで、楽しみに参加する姿が見られている。 ・毎日利用している子ども（特に3歳児）は、預かり保育に参加するのを嫌がったり、遊びに飽きてきたりする姿も見られる。また、個別に支援の必要な子どもが参加する時の安全確保が課題である。 ・アンケートより、ほぼ全員が保護者が安心して預かり保育を利用できると感じていることがわかった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の預かり保育は、就労している保護者にとって大変ありがたい。就労などの理由がないと預かり保育を利用できないと思っている保護者もいるかもしれないで、情報発信に努めてほしい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数は、常に 15~20 名の利用がある。大半が 16 時に降園し、17 時すぎまでが 3~4 名である。5歳児は、ほとんどの子どもが、毎日利用しており、4歳児も半数以上の利用がある。3歳児の常時利用は少ないが、通院やリフレッシュなどで利用されることが増えてきた。 ・早朝預かり保育は、常時 4~5 名である。時期によって遊び方に差があったり、日によって子どもの状態が不安定であったりする。その日の様子を見て遊びを考えている。 ・保護者アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答は、「あてはまる」94%「ややあてはまる」6%であった。
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に 5・4歳児の利用が多いので、手先を使った知育玩具（ラキューやレゴブロックなど）の遊びが多い。継続ができるように作品を残しておくことで、継続して遊びたい思いが続いている。編み機によるマフラーも人気で、何日もかかって作り上げる満足感を味わう姿も見られる。 ・カードゲームなど、預かり保育教員と共に楽しみながら、友達との関わりが増えている。知っている5歳児が、年下の子どもに教える姿も見られ、異年齢での関わりも深まっている。 ・早朝預かり保育は、保護者もせわしなく送ってくるので、日によって子どもの状態が不安定である。（特に3歳児）早朝預かり保育の教員が、安定できるように寄り添ったり、興味がもてる遊びを提供したりして関わっており、保護者も安心して送り出している。 ・保護者アンケートより、概ね満足していてくださっている。今後も安心して預けられるように、活動内容を検討していきたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常預かり保育では3歳児の利用も増えてきている。早朝預かり保育でも、一人一人の状態に差がある。参観人数や学年、時期に合わせて、おもちゃを選んでいく。 ・一人でじっくりと遊べる場と、友達や異年齢での関わりができる場など、それぞれが居心地のよい場になるように、環境を考えていく。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く保護者にとっては、預かり保育の充実はありがたいと思う。長時間していることをもっとアピールしていければいいと思う。

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組

- ・「ほっこり子育てひろば」で、子育ての困りや喜びを共有し、保護者同士が安心して楽しめる時間になるようとする。
- ・満3歳児預かり保育「いちご組」を開設し、更なる地域の未就園児に対する子育て支援を行う。
- ・地域の児童館、保育所と保護者や子どもの実態などの情報を交換する「ぐんぐん会議」を定期的に行い、地域の事業に参画する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・ほっこり子育てひろばの実施回数と参加者数
- ・「ぐんぐん会議」の実施回数とその内容
- ・保護者のアンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」の回答

中間評価

各種指標結果

- ・ほっこり子育てひろばは、4回実施、参加者数は13名であった。家庭教育学級では、「どうする？スマホ等との付き合い方」で、行い、参加者は6名であった。
- ・ぐんぐん会議は、2回実施、それぞれの活動内容の報告と情報交換交流
- ・保護者のアンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」の回答は、「あてはまる」が98%「ややあてはまる」が2%であった。

自己評価

分析(成果と課題)

- ・誕生会後のほっこり子育てひろばは、働いている保護者の方が参加しにくいが、少人数で話しやすい雰囲気があり、生活習慣や子育ての悩みなどについて話し合うことができた。継続しながら、より子育て支援につながるような話題提供をしたい。「スマホとの付き合い方」の子育てひろばでは、インストラクターの進行で、和やかに進み、保護者が参加してよかったですと満足されていた。
- ・ぐんぐん会議では、11月のイベントの打ち合わせや情報交換を行った。それぞれの活動内容や悩みなども交流することで、地域の子どもや保護者の実態をしることができた。
- ・預かり保育、業者弁当、未就園児クラスなど保護者は概ね満足している。保護者の要望で業者弁当回数を週5回の選択制にした。
- ・満3歳児の預かり保育「いちご組」の開設で、新たな利用者が増え、地域の子育て支援につながっていると感じる。より発信していきたい。
- ・未就園児クラスの活動は、風船遊びや戸外での遊びに参加されることが多かった。活動内容をより充実できるように計画していきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ほっこり子育てひろばは、継続することが大事で、より充実するため、どんな内容がいいのか、探っていく。
- ・ぐんぐん会議で、地域とのつながりがもてているので、児童館・保育所と連携して、今後も地域の子どもや保護者の実態把握に努める。
- ・満3歳児預かり保育「いちご組」の発信、未就園児クラスの親子で楽しめる活動内容を考える。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・ほっこり子育てひろばの実施回数と参加者数
- ・教育相談(未就園児クラス)の取組や参加人数
- ・保護者のアンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」の回答

学校

学校関係者による意見・支援策

関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・満3歳児の預かり保育が実施できたことは、大きい。まだ、知らない人も多いので、いろいろなところへ発信できればいいと思う。
-------	--

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育ては、誕生会後に3回実施。参加者は、8名参加。 ・教育相談（未就園児クラス）は、月に一回季節の製作の活動や、講師を招いて親子で体操の活動の取組をした。製作やめだか組には、5～8名の親子が参加するが、満3歳児いちご組への参加が増え、2歳児親子限定の教育相談の参加は少なかった。 ・保護者アンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」の回答は、「あてはまる」100%であった。
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろばに参加された保護者のアンケートから、保護者同士の同じような悩みを分かち合えると満足度は高いが、働いておられる保護者が多くなってきているので、参加者が増えない。 ・未就園親子クラスでは、製作活動などの取組が喜ばれ、親子で楽しく活動され、満足度が高かった。幼稚園でしかできないいろいろな経験ができる活動内容を考えていきたい。 ・満3歳児いちご組は、継続して参加する子どもが多く、入園にもつながっている。いちご組ができてから、週2回いちご組に参加するため、金曜日の2歳児のみの親子クラスの利用が少なくなってきた。また、めだか組に参加の親子は、週1回と少な目である。教育相談をより多くの方が利用しやすいように、曜日など検討していく。 ・保護者アンケート結果は、満3歳児いちご組開設もあり、満足度が高かったと思われる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろばは、早めに日程を知らせたり、参加する月を限定せず、予定に合わせて前後したりするなどして、参加しやすくしていく。 ・来年度は、0～2歳児の親子への子育て支援をより充実させるために、教育相談の回数を増やしていく。また、満3歳児いちご組と2歳児親子クラスを同じ曜日することにより、親子クラスから、子どもだけへと、スムーズに移行できるようにする。 ・幼稚園に来たいと思えるいろいろな経験ができる活動内容を考えていく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満3歳児の利用が増えているので、保護者もありがたいと思う。地域での子育ての活動や児童館での子育てクラブなどもある。小さいお子さんのいる保護者が、いろいろな場所を活用したり、子育ての仲間ができたりしていけば、嬉しい。

（5）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会で園の教育方針について発信し、幼稚園教育の理解を図る。 ・幼稚園評価について、意見や改善策をきいて、評価委員会で教育計画を見直し改善を図る。
--	---

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学校運営協議会での教育方針の説明の実施、園行事や地域との交流についての意見聴取。
- ・幼稚園評価結果についての評価委員会の実施
- ・保護者アンケート項目「園は、地域と連携した取組を進めていること」の回答

中間評価

各種指標結果

- ・6月27日学校運営協議会で、教育目標や園の実態について発信した。
- ・評価委員会を行い、保護者評価と教職員評価の結果をみて、違いや今後の課題などを出し合った。
- ・保護者アンケート項目「園は、地域と連携して、子どもを育もうとしている」の回答は、「あてはまる」が100%であった。

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・地域の方々に教育方針について発信することができた。運動会での姿を通して、子どもの成長を見ていただくことができた。
- ・評価委員会では、保護者評価をもとに学級経営を振り返り、3歳児は、先生との信頼関係を大切にし、基本的な生活習慣を身につけるための丁寧な関わりを継続すること、4歳児では友達や集団で遊ぶ楽しさを十分に感じられるようにすること、5歳児は、いろいろな人と関わったり、友達と遊びを進めたりできるようにすることが課題であるという意見がでた。担任が大事に取り組んでいることを、より伝わるようにホームページなどで、発信していく。
- ・保育所・小学校との交流やPTA活動が評価されたと思われる。PTA活動は、メッセージアプリを使用して集合する役員会を少なくするなど、負担にならないように工夫して下さっている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ホームページやインスタグラムの定期的な更新などにより、地域や保護者に幼稚園教育を発信する。
- ・評価委員会で、保護者の願いや担任の思いを受け、子どもが豊かな経験を通して成長できるように、園の教育方針をもとに取り組んでいく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・園行事や地域との交流について、学校運営協議会での意見聴取
- ・ホームページの定期的な更新
- ・幼稚園評価結果についての評価委員会の実施

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・昨年度のお茶会での経験から子どもたちが興味をもち、製作活動に発展した取組を聞き、自分たちがしたことが子どもたちにいい体験になっているようで、嬉しい。こちらが子どもたちから思いもしない質問がとび出るなど、興味をもってくれていることがわかり、今年も楽しみである。機会があるならば親も巻き込んで豊かな経験ができればいいと思う。
- ・楽しみにしている保護者や教育の発信にもなるので、ホームページの更新回数を増やしていただきたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・地域の女性会にお世話になり、年長児の子どもたち向けに、茶道体験を開いてくださった。地域の方とのつながりを感じることができた。
- ・ホームページの更新は、二学期までは継続的に更新していたが、3学期はあまり更新できなかった。

	<p>インスタグラムでの発信も求める声もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価委員会で、幼稚園アンケートをもとに、保護者が求めていること、保育内容の充実について話し合った。
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域事業である「ぐんぐんひろば」は、4・5歳児が参加し、近隣の保育所と共に楽しむことができた。ぐんぐん会議でも、児童館や保育所と情報交換することができた。 ・女性会の方のお世話になった茶道体験では、日常なかなか経験できないお茶室で、作法を教えてもらったり、実際にお茶を点てたりし、貴重な経験ができた。ただ、作法などを知ることだけでなく、おもてなしの心や願いなども教えて頂き、伝統文化を感じることができた。 ・評価委員会で幼稚園評価の結果や自由記述について話し合った。保護者が感じていること、教員が感じていることの共通点や意識の違いなど分析し、改めて幼児教育について発信していく重要性を再確認した。
学校関係者評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶道体験や地域の行事の経験を保育につなげたり、子どもの姿を発信したりして、地域とのつながりについて考えていく。 ・評価委員会での意見をもとに、自分の保育や保護者との関わりをふりかえり、幼児教育についての理解を深めていく。 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お茶会では、子どもたちのかわいい姿や抹茶を初めて頂く子どももいて、貴重な経験になっているようで取り組んでよかったと思う。今後も地域とのつながりをもっていってほしい。

(6) 教職員の働き方改革について

	<p>重点目標</p> <p>業務の効率化、精選を行い、教職員が見通しをもって仕事をする。</p>
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務の削減 ・校務支援員の活用、および、担任会の実施
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退勤の回数（月に1～2回） ・校務支援員の活用の仕方

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退勤は出張時にはできた（月に1～2回）が、園で仕事をしている時は、できにくい。 ・校務支援員には、教材準備以外に、倉庫整理などをしてもらい、わかりやすく、片付けやすい倉庫を目指して取り組んでもらっている。 ・担任会は、月に一回実施した。
自己	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倉庫整理は、教材の残数がはっきりわかつたり、みんながわかりやすいように整理することで、

評価	<p>片づける時間や探す手間を省けたりできた。畠の整備など、担任が時間的に厳しいところをお願いできて助かった。校務支援員の有効活用は、見通しを持てないと活用しにくい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任会は、職員会の時間短縮につながる他、担任が行事や保育に見通しがもてるので、今後も必要である。見通しがもてるよう、次回の担任会の案件を伝えて、担当が意識しておけるようする。 ・今年度は異動者が多く、行事や日々の保育で共通理解することに時間を費やした。行事に対するそれぞれの学年のねらいや異年齢での遊びでの関わりなど、教員同士の思いや考えの共有が課題である。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援員の計画的な活用（園内整備や効率的に運営するための整備） ・月一回の担任会での案件を事前に共有して、見通しをもち、計画的に準備ができるようする。時間がかかるが、ねらいや内容をしっかりと話し合い、教員が意欲的に考えができるよう機会とする。 ・出張以外にも意識して定時退勤日を設定する。（月に1～2回） <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援員の活用の仕方 ・担任会や職員会議にかかる時間 ・定時退勤の回数（月1～2回）
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙をアプリ配信することは、業務削減になり大変よいことだと思う。必要に応じて配布する・必要な人が取るなどの取組もよいと思う。便利な反面、園からの情報発信が一方通行にならないように、今までのような先生とのやり取りも大切にしていってほしい。
最終評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援員の活用では、前期に引き続き、各担任が教材準備や片付けなどできないことを助けてもらい、教員の負担軽減につながった。 ・職員会議は事前に資料を配布し、情報共有することで時間短縮につながったが、担任会では、具体的な内容について検討する分、時間がかかることがあった。 ・定時退勤の回数については、教員によって、できた月とできにくかった月があった。
自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の経験がある校務支援員であるため、先々の見通しをもって率先して準備などに取り掛かり、スムーズに業務が遂行できた。また、パソコンでの作業や地域への配布物など、新たな業務を頼めたことで、園全体の負担軽減につながった。効率化を図るために、仕事内容を分担することはよいことだが、校務支援員が率先して進めてくれることで、教員が内容を把握できていなかつたり、任せきりになってしまったりすることが課題として挙げられる。 ・勤務時間の多様化により、情報共有しにくいことは、ホワイトボードや職朝の内容を記入したノートで確認してもらうことで、共通理解を図ることができた。 ・定時退勤は、行事などで忙しい月はなかなかできにくかった。仕事の優先順位を決める、見通しをもって計画を立てるなど、意識がもてるようにしていくことが課題である。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援員への依頼内容について、すべてを任せきりにするのではなく、見通しをもって伝えたり、準備や片付けまでも保育に取り入れたりするなど、計画的に進めて行く。 ・引き続き、ホワイトボードと職員会ノートを活用して、共通理解を図っていく。手紙やレジュメは、それぞれが目を通して、情報を共有し、自分事として取り組めるようにしていく。 ・定時退勤は、それぞれが意識できるように、管理職が率先して行うようにする。
学校 関係 者評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域にリーフレットを配布した。幼稚園の現状や校務支援員などを活用した取組などを伝えた。預かり保育も18時までしていることを知って、忙しくしていることをご理解いただき、園でもいろいろな取組がなされていることを、保護者や地域にも周知できるようにしたいという話が出た。